

先月までの為替相場のレビューと、
今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2015/07/01

ギリシャ関連報道が波乱要因に

通貨ペア	基調		ページ数
<u>ドル/円</u>	➡	米指標結果をひとつひとつ確認 予想レンジ: 120.500 ~ 125.000 円	2 - 3
<u>カナダ/円</u>	➡	まずはギリシャの影響を見極め 予想レンジ: 95.500~99.700円	4 - 5

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

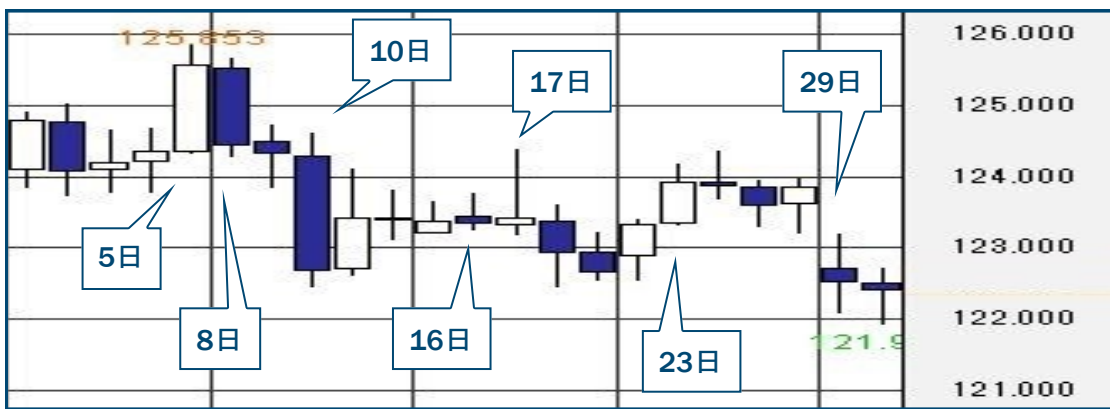
Copyright©2015Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

USD/JPY

ドル/円 6月の推移

6月のドル/円相場は121.943～125.853円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約1.4%の下落(ドル安・円高)となった。

ドル/円は米5月雇用統計の好結果を受けて125.853円と2002年6月以来の高値を付けた。しかし、オバマ米大統領によると報じられたドル高牽制発言(後に否定)や、黒田日銀総裁による円安牽制(と市場に受け止められた)発言などによって上げ幅を縮小。その後はギリシャのデフォルトおよびユーロ離脱懸念が広がる中で方向感に乏しい展開となった。米連邦公開市場委員会(FOMC)の声明で利上げ時期についての踏み込んだ示唆がなかった点も、ドル/円が主体的に動く動機が薄れた要因となった。



四本値	
OPEN	124.113
HIGH	125.853
LOW	121.943
CLOSE	122.430

5日	年金積立金管理運用独立行政法人(GPIF)の三谷理事長が「為替ヘッジ導入は今すぐ対処すべき課題ではない」と発言すると円安が進行。さらに米5月雇用統計において、失業率は5.5%と予想(5.4%)に反して悪化したものの、労働参加率が62.9%へ改善(前月:62.8%)していた事、非農業部門雇用者数が28.0万人増(予想:22.6万人増)、平均時給が前月比+0.3%(同:+0.2)と予想よりも強い結果になった事を受けて125.853円まで上昇した。
8日	仏政府筋の話として「オバマ米大統領は強いドルは問題、と発言した」と伝わるとドル売りが一時強まった。さらに、その後も米株安・米長期金利低下を背景にドル/円は軟調な地合いが続いた。
10日	黒田日銀総裁が朝方に「米国の利上げが織り込まれているのであれば、これ以上ドル高になる必要はない」と発言した上に「実質実効為替レートでここからさらに円安はありそうにない」「これまで円安が経済にプラスだったから、さらなる円安でさらにプラスという事ではない」などと発言すると、市場は円安牽制と受け止めてドル/円は急落した。
16日	黒田日銀総裁が「名目ベースで円安を望んでいないとは言っていない」「円安にならないと言ったわけではない」などと10日の発言について答えた事で、123.782円まで一時円安が進行した。
17日	FOMCの声明発表に向けて、9月利上げについて踏み込んだ示唆があるのではとの期待から米長期金利が上昇すると、ドル/円は上昇。発表されたFOMC声明は「米経済は厳冬の影響から緩やかに持ち直しており、年内利上げに耐え得るほど力強い公算が大きい」「労働市場のさらなる改善が見られ、インフレが中期的に目標の2%に向かうとの合理的な確信が持てた時、金利引き上げが適切であると予想」などと景気判断を引き上げた事を受けて124.391円まで上昇した。しかし、同時発表の経済・金利見通しにおいて、2015年末のFF金利見通しこそ据え置いた(3月:0.625%)ものの、2016年末は1.625%、2017年末は2.875%に下方修正(3月:1.875%、3.125%)した他、経済成長率見通しなども下方修正した。これを確認してドル/円は失速。さらに、その後に米連邦準備制度理事会(FRB)のイエレン議長が9月の利上げについて明確な示唆をしなかった事もこの流れを助長し、123.204円まで下値を切り下げた。
23日	パウエルFRB理事が「9月までに利上げの用意が整う可能性は50%近く、その後12月の追加利上げを見込んでいる」と述べた事で年内2回の利上げ期待が台頭し、ドルは一時上昇した。
29日	前週末27日にギリシャのツィプラス首相が7月5日に債権団から提示された支援策の受け入れについて国民投票を行う方針を表明し、それまでの金融支援の延長を求めたが、これはユーロ圏財務相会合で拒否された。これによってギリシャのデフォルト懸念が一気に高まり、週明けのドル/円は窓を開けて急落して始まった。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

USD/JPY

米2年債利回

OPEN	0.6092%
HIGH	0.7523%
LOW	0.5993%
CLOSE	0.6427%

米10年債利回

OPEN	2.1249%
HIGH	2.4985%
LOW	2.1040%
CLOSE	2.3531%

日経平均

OPEN	20444.54
HIGH	20952.71
LOW	19990.55
CLOSE	20235.73

NYダウ平均

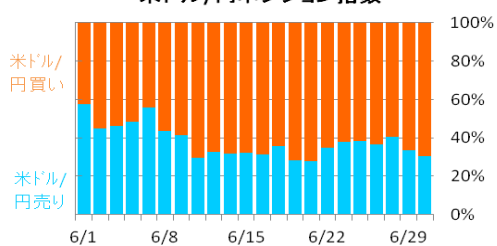
OPEN	18017.82
HIGH	18188.81
LOW	17576.50
CLOSE	17619.51

6月のポジション動向

7月の注目ポイント

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

米ドル/円ポジション指数



- ・6月米雇用統計(2日)
- ・5月日本経常収支(8日)
- ・FOMC議事録(8日)
- ・6月米小売売上高(14日)
- ・日銀金融政策決定会合(14-15日)
- ・6月米消費者物価指数(17日)
- ・6月日本通関ベース貿易収支(23日)
- ・米FOMC(28-29日)
- ・4-6月期米GDP・速報値(30日)
- ・6月日本消費者物価指数(31日)
- ・日米要人発言
- ・ギリシャ関連報道

7月の見通し

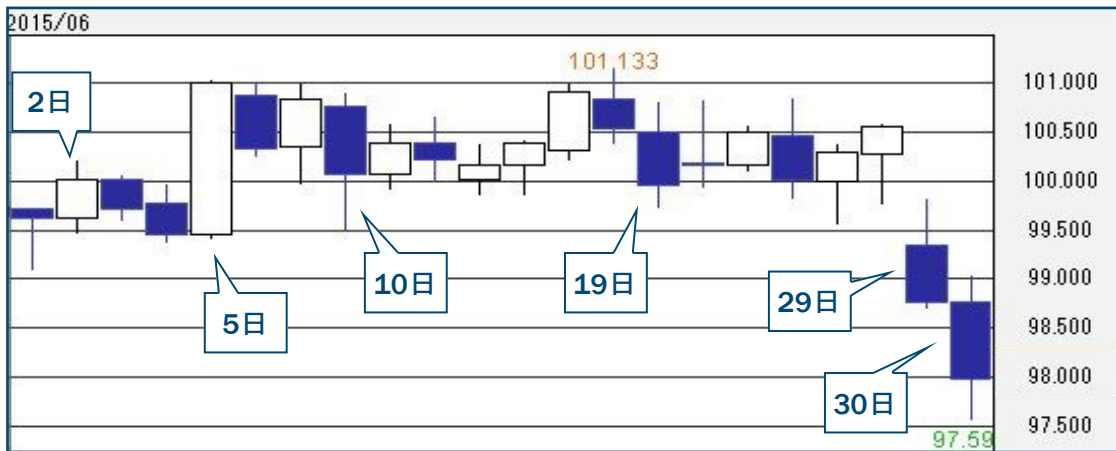
ドル/円相場を取り巻く環境を確認すると、前月からほとんど状況は変わっていない。6月FOMCでイエレンFRB議長は市場のメインの予想である9月利上げについて踏み込んだ示唆をしなかった。市場は7月のFOMCでの利上げはほとんど考えておらず、ここからの市場はイエレン議長の「利上げは経済指標データ次第」という言葉通り、9月FOMCを睨んで各種経済指標の結果を一つ一つ確認していくしかなさそう。6月までの時点の金利先物市場の様子を眺めると、9月利上げスタートの織り込み度合いは半分程度であるため、好結果の経済指標が続けば、利上げ期待からの金利上昇→ドル高の進む余地はまだあると言える。ただ、9月FOMCまで2カ月半以上有るため、多少良好な結果の経済指標が重なっても、一気に9月利上げを織り込みに行くとは考えにくい。ドル高が進んだとしても、かなりゆっくりなものにならざるを得ない可能性がある。また、ドル/円に関しては6月、日米双方からドル高・円安を警戒する声は少なからず聞かれた。ドル/円が125円を超えると、再びそうした要人の口先介入が入るのでは、との警戒感が広がる可能性もある。この点はドル/円の重石となってこよう。

さらに、ギリシャの財政問題に関する報道も波乱要因として気を配る必要がある。細かな材料が直接ドル/円に影響する様子はないが、ギリシャとユーロ圏諸国の不協和音が深刻化し、米長期金利が低下すると、ドル安・円高圧力となる。両者の関係悪化が決定的なものになれば、ドル/円も120円台半ば辺りまで急落する事も考えられる。(石川)

(予想レンジ: 120.500~125.000円)

カナダ/円 6月の推移

6月のカナダ/円相場は97.590～101.133円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約1.7%の下落(カナダドル・円高)となった。18日に、約5カ月ぶりの高値となる101.133円まで上昇するなど、上中旬は堅調に推移した。ただその後は、米国の利上げ期待などからカナダドル安・ドル高に振れた影響を受けて伸び悩んだ。月末になると、ギリシャ情勢への懸念からリスク回避ムードが高まったため29日に急落。30日には97.590円まで下落するなど、一気に下値を切り下げた。



四本値	
OPEN	99.731
HIGH	101.133
LOW	97.590
CLOSE	97.989

2日	ユーロ圏5月消費者物価指数・速報が予想を上回った事などからユーロに対してドルが下落する中、NY原油先物が61ドル台に上昇。これを受けてカナダドル買いが活発化すると約3週間ぶりに100円台を回復した。
5日	加5月雇用統計で、雇用者ネット変化が5.89万人増と予想(1.00万人増)を大幅に上回った事(失業率は6.8%と予想通り)を受けてカナダドル買いが活発化。同時発表の米5月雇用統計が良好な結果となり、ドルに対して円が売られた影響もあってカナダドル高・円安が進んだ。また、この日行われた石油輸出国機構(OPEC)総会で、予想通りに生産目標維持が決定し、材料出尽くし感からNY原油先物が上昇した事も買い材料となり、約5カ月ぶりに101円台に乗せた。
10日	黒田日銀総裁が国会で「実質実効為替レートで見ると円安になっているのは事実」「実質実効為替レートでここからさらに円安はありそうにない」「これまで円安が経済にプラスだったから、さらなる円安でさらにプラスという事ではない」などと発言すると急速に円買いが強まり一時99円台半ばまで下落した。その後甘利経済再生担当相が、黒田総裁の発言に円安牽制の意図はなかったと説明した事から円が売り戻されたため100.80円台まで値を戻す場面もあったが、上値は重かった。
19日	加5月消費者物価指数が前年比+0.9%、コア指数も前年比+2.2%と予想(+0.8%、+2.1%)を上回った事から一時的にカナダドルが買われる場面もあったが、同時に発表された加4月小売売上高が前月比-0.1%と予想(+0.7%)に反して減少した事から売りが優勢となった。さらに、NY市場に入り米国株が下落して始まった事も重石となり、99.70円台まで下落した。
29日	ユーロ圏財務相会合は27日、ギリシャが要請していた金融支援の延長を拒否。これを受けてギリシャの債務不履行(デフォルト)懸念が高まった事から、週明けの東京市場オープンと同時にリスク回避の円買いが強まり99円台を割り込んで下落した。
30日	前日の下落の反動から一時99円台を回復して上昇したが、加4月国内総生産(GDP)が前月比-0.1%と予想(+0.1%)外に減少した事をきっかけに反落。月末・四半期末のドル買い需要から米ドル/カナダドルに買いが入った事も重石となり、97.590円まで下落してほぼ2カ月ぶりの安値を付けた。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

加10年債利回り

OPEN	1.619%
HIGH	1.923%
LOW	1.593%
CLOSE	1.683%

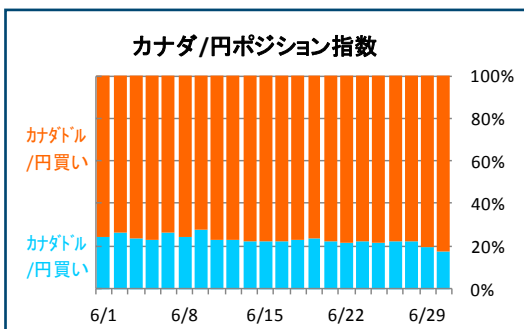
N Y 原油

OPEN	60.29
HIGH	61.82
LOW	56.83
CLOSE	59.47

NYダウ平均

OPEN	18017.82
HIGH	18188.81
LOW	17576.50
CLOSE	17619.51

6月のポジション動向



7月の注目ポイント

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

- ・日銀短観(1日)
- ・5月日本経常収支/貿易収支(8日)
- ・6月加住宅着工件数(9日)
- ・6月加雇用統計(10日)
- ・6月中国貿易収支(13日)
- ・日銀金融政策決定会合(14-15日)
- ・加中銀政策金利発表(15日)
- ・加6月消費者物価指数(17日)
- ・6月日本通関ベース貿易収支(23日)
- ・7月中国HSBC製造業PMI・速報(24日)
- ・米FOMC(28-29日)
- ・6月日本消費者物価指数(31日)
- ・5月加GDP(31日)
- ・原油相場など国際商品価格
- ・主要国株価

7月の見通し

7月のカナダ/円相場は、6月と同様に神経質な展開を強いられそうだ。まずは、ギリシャ問題の影響がどこまで広がるのか見極めたい。5日にギリシャで行われる予定の緊縮策受入れの是非を問う国民投票は、事実上同国のユーロ離脱の是非が問われる事になるとの見方が強い。また、20日に償還を迎える欧州中銀(ECB)保有のギリシャ国債の取り扱いも注目される。市場がこれらを気にしてリスク回避ムードが支配的となればカナダドルには下押し圧力がかかる公算が大きい。ただし、ギリシャのデフォルト自体は国際金融市場に大きな影響を与えないとの見方が一般的であり、ユーロ離脱さえ回避されれば(国民投票で緊縮受入れが決まれば)市場の関心が急速に薄れる事も考えられる。いずれにしても、ギリシャ問題については政治絡みのイベント色が強いだけに、結末に対して予断を持たずに臨むのが賢明だろう。

ギリシャ情勢が好転した(あるいはヤマ場を越えた)場合に、という条件付ではあるが、カナダの景気指標やカナダ中銀の政策スタンスが次の注目ポイントとして浮上する事になりそうだ。なお、カナダ中銀は5月の理事会ではインフレ上昇にやや警戒感を示しながらも、次の一手(利上げOR利下げ)については明確な示唆を避けている。6月に発表された5月消費者物価指数が予想を上回る伸びを示しただけに、カナダ中銀の見解が注目されよう。(神田)

(予想レンジ: 95.500~99.700円)